

古代の

古代王国の^{なぞ}謎にせまる

しまね

— ふるさと読本 —



「古代のしまね」を読むみなさんへ

みなさんは、昔の島根県のこと(古代のしまね)について、どんなことを知っていますか？

私たちの島根県には、日本や世界に誇れる遺跡や文化財がたくさんあります。

荒神谷遺跡や加茂岩倉遺跡が発見され、土の中からたくさんさんの銅剣、銅矛、銅鐸が出てきたときは、日本中がびつくりする大ニュースになりました。

この外にも、出雲地方、石見地方、隠岐地方には、多くの遺跡があり、特色のある文化があったことがわかっていきます。

調べていくと、ここ島根県の古代には、興味深い話、不思議な謎も、たくさんあることがわかってきます。

この本は、特に、縄文時代から奈良時代の島根県の特色あるできごとを、わかりやすく、楽しくとりあげてみました。

この本を読んで、小・中学生のみなさんが、いっそう古代の島根について興味をもち、調べ、古代の人たちのすぐれた知恵や生き方を学びとってほしいと思います。

さあ、いっしょに古代のしまねの探検に出かけましょう。

いっしょに探検しよう！



なんだかワクワクするわ！

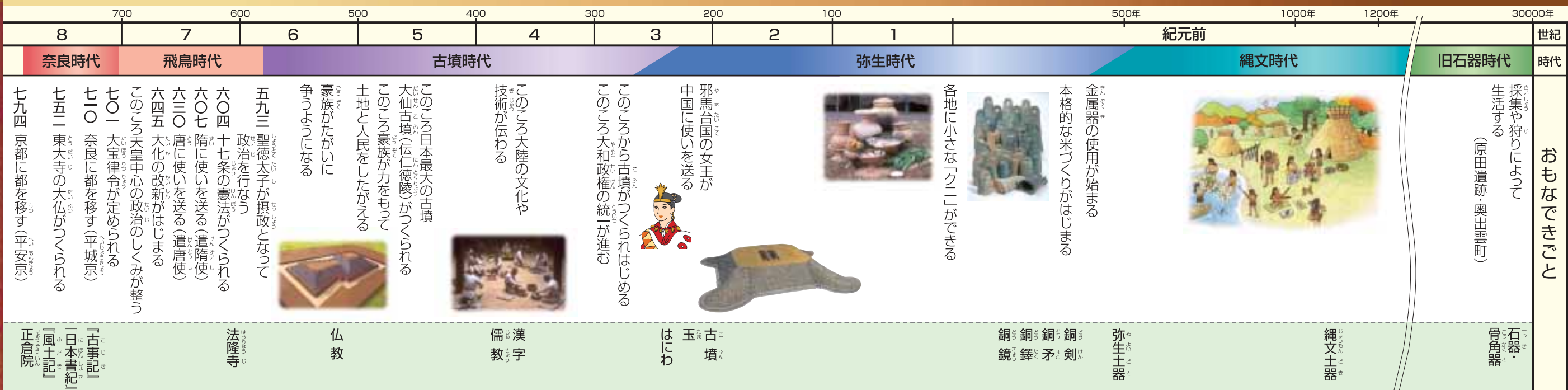
もくじ

縄文時代	縄文時代・海のくらしと山のくらし……………4 海を渡った黒く輝く石……………6 黒曜石を求めて……………8
弥生時代	考古学者たちも驚いた！……………10 島根の青銅器大解剖！……………12 古代出雲器想ものがたり「青銅器との訣別」……………14 王墓、あらわる！……………16 弥生のムラに生きた人々……………18 鏡に隠された秘密とは？……………20 出雲の古墳は四角!?……………22 巨大な古墳に眠るのは…?……………24 古墳時代に生きた島根の人々……………26
古墳時代	島根最古の書物、出現！……………28 古墳にかわって新しい建物登場！……………30 オモシロイぞー!『出雲国風土記』……………32 空にそびえる、幻の神殿！……………34
奈良時代	しまねの古代を探ってみよう!!……………36



古代の島根にはオモシロイことがあるのじゃよ！

年表



縄文時代・海のくらしと土器のくらし

どんな生活だったんだろう?!



ポイント1

縄文人のくらしが前の時代に比べてずいぶん豊かになった理由がわかるかな?



意外に快適?! 縄文人の家

縄文時代の初めころは洞へつを家にしてへひす人もいましたが、だんだんと「竪穴住居」に住むようになりましした。竪穴住居とは、熱を逃がさないように地面を掘り、床に柱を立てて骨組みを作り、屋根をこいたものです。かやぶきの屋根は、冬の寒さだけでなく日光をさえぎり、夏の強い日差しからも守ってくれました。

家の中央には炉があり、寒い季節には家族みんなで火を囲み、土器や狩りの道具を作っていたのでしよう。縄文時代の人々の家、だんらんのように目を浮かべてみましょう。



もっと知りたい!

ポイント1について詳しく見てみよう!

それまでの時代に比べて、縄文時代のくらしが良くなった理由は、二つ考えられます。一つは暖かくなり、食料となる動植物がふえたこと、そしてもう一つは、弓矢や土器の発明により利用できる食料がぐっとふえたためです。土器を使うことで、それまで食べられなかったトングリや貝類を煮炊きして食べられるようになったのは、大きな変化でした。こうして、狩りや採集を中心とした豊かなくらしは、その後約一万年近くも続いたのです。

縄文人の生活カレンダー



いろいろなものを食べていたのね!



狩りと漁と採集の日々

縄文時代は、今から約二万二〇〇〇年前から約二五〇〇年前まで、約一万年もつづいた長い時代です。当時の人々の生活は、生きていくのに必要な道具を作ったり、食べ物を集めたりすることが中心でした。人々は、四季のサイクルに合ったくらしをしており、海で魚や貝をとったり、木の実や野草の採集、シカやイノシシなどの狩りをしていました。中でもトングリなどの木の実は特に重要なカロリー源でした。住居は、竪穴住居と呼ばれるものが主流でした。これは何軒かまとまって発見されることが多く、このことから「ムラ」がつけられ、人々は集団で生活していたことがわかります。また、縄文土器と言われる土器は、縄や貝がらでようを付けるのが特徴で、おもに魚や貝などを調理することに使われました。その他「うるし」を塗った弓矢や木の器なども見つかっており、縄文時代の人々が協力し合い、工夫をこらした生活をしていたことがわかります。



島根県のおもな縄文時代遺跡

海を渡った黒く輝く石

縄文時代

黒曜石はどんなふうに使われた？

黒曜石は火山がつくった「宝の石」

黒曜石の産地は、全国で約

五十カ所ほど知られていますが、このうち石器の材料として使われたのは、隠岐の島を含めたほんの数カ所の地域のものであります。島根半島(本土)から六十キロメートルほどの距離に位置する隠岐諸島は、島前・島後からなる火山島です。



ポイント2

この黒い石は、どんなことに使われていたのかな？

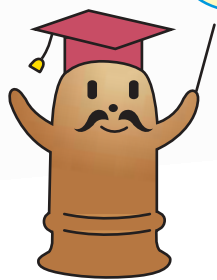


島根県内で、こんな貴重な石がとれていたんだね！



ポイント3

黒曜石はどんなふうにすぐれていたのかな？



黒曜石は、火山の噴火によって流れ出た溶岩が冷えて固まってできたもので、いわば「自然のガラス」です。隠岐の島町には、大満寺山という火山があり、何百万年も前の噴火によって隠岐の黒曜石は誕生しました。今から三万年以上も前の旧石器時代から縄文時代にかけての数万年間、隠岐の黒曜石は、とても切れ味のすごい刃物として大切に使われていました。

当時、だれもが欲しが「宝の石」だったので。

もっと知りたい!

ポイント2について

くわしく見てみよう!

▲スクレイパー (削る道具)

おもに動物の皮をはがし、衣服として利用する時に、皮をなめす道具として使われました。動物の肉を切ったりするのにも使われたと考えられています。

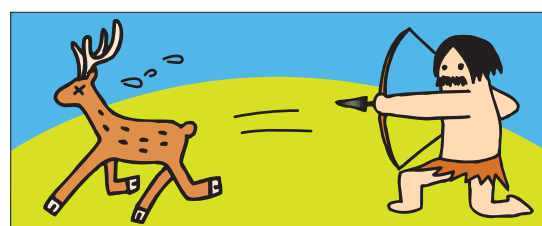


もっと知りたい!

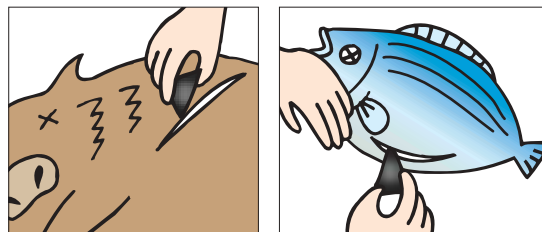
ポイント3について

くわしく見てみよう!

●矢じりやナイフ、やり などに最適!



すばしっこいシカやイノシシは弓矢で射止めるのが一番!



えものの皮をはぐ 魚をさばく

●最強のナイフ!

縄文時代には、まだ金属は使われていなかったもので、ものを切ったり削ったりするのに石を使っていました。しかし、ふつうの石からはそれほどいい刃をつくることはできません。ところが黒曜石は、まるで刃では金属製の刃物をしのぎます。黒曜石を最初に発見した人間は、その切れ味に、なぜビックリしたかというところから

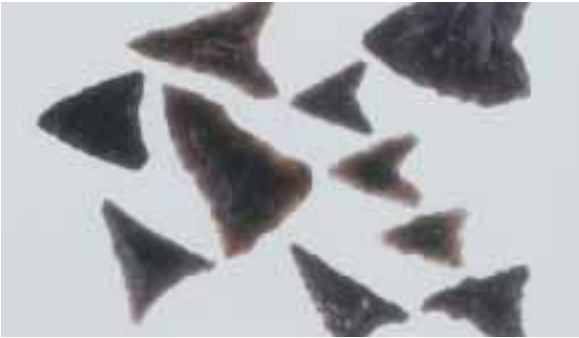
黒曜石はこんなふうに使われていた!

▼矢じり

矢の先につけるもの。黒曜石で作られた石器の中でもっとも多く見られます。縄文時代のはじまりとともに使われ始め、鳥や小動物も狩りでとることができるようになりました。また、刺さった時に抜けるように形が工夫されています。



一度刺さるとひっかかって抜けにくい



縄文人は超グルメ!

島根県内の縄文時代の遺跡からは、さまざまな種類の動物の骨、魚の骨などが発見されています。今から二万数千年前ころから、気候が温暖になり、木々がふえ、それにもなつて動物たちもふえてきました。縄文人にとって食糧となるものは海に山に豊富にあったのです。まさに、縄文時代は日本人にとって「食革命」の時代だったのでないでしょうか。



黒曜石を求めて

縄文時代



ポイント4

隠岐の黒曜石は、海を越えたいろいろな場所から見つかるのじゃ！

ロシアや朝鮮半島からも！

ポイント5

どうして隠岐ではとれるのかな？

ほとんど隠岐産の黒曜石を使っていた地域

隠岐産だけでなく、その他の地域からとれた黒曜石も使っていた地域

隠岐は「宝島」
隠岐の黒曜石の産地として確認されているのは、久見、加茂、津井などで、久見では現在もとられており、観光用のおみやげなどに加工されています。

隠岐の黒曜石は、瀬戸内沿岸や関西地方でも見つかっているだけでなく、日本海を越えたロシアや朝鮮半島の遺跡からも見つかっています。注①

また、香川県でとれるサヌカイトという石も島根県内の遺跡からたくさん出土しています。このことから、縄文人がさまざまな地域と活発な交流をしていたことがわかります。

海や山を越え、命がけで「宝の石」を手に入れた縄文人たち。石に託されたその思いが伝わってきます。注②



ポイント4から推測すること…？

古代の人々は、隠岐と本土をどうやって渡ったのでしょうか。このナゾを解くため、松江市の小学校の先生たちが大実験を試みました。まず、縄文時代と同じように、大木をくりぬいて丸木舟をつくりました。そして、一九八二年七月、知夫里島から実際に黒曜石十五キ口を積み込み、十三人で交代しながら、十二時間四十三分をかけて本土まで渡り切りました。

縄文の人たちも、荒波にもまれながら必死の思いで「宝の石」を持ち帰ったにちがいありません。県内各地から出土した丸木舟やオールが、その苦勞を物語っています。



出雲市三田谷遺跡から出土した縄文時代の丸木舟(今から三五〇〇年前のもの)



松江市島根大学構内遺跡からみつかったオールとヤス(今から六五〇〇年前のもの)

写真提供/島根大学ミュージアム

ポイント5についてくわしく見てみよう！

黒曜石は火山の噴火による溶岩からできていますが、どんな溶岩でもいいというわけではありません。黒曜石は、ガラス成分を多く含む溶岩でできています。隠岐島の西海岸は、ガラス成分の多い岩なのです。この特徴は三瓶山など県内のほかの火山にはなく、隠岐の島の火山には見られない特徴なのです。



黒曜石を産出する久見(隠岐の島町)の海岸

コラム

石の産地を調べる

石の産地は、「蛍光X線分析法」という方法で調べることが出来ます。これは、石の成分を分析する装置を使い、「蛍光X線」という特殊な光線を石にあて、反射して返ってくる光を見て、それぞれの石の成分を調べます。成分は、産地によって違いますが、それによってどこでとれた石であるかがわかります。

謎

モアイの目は、黒曜石だった！

はるか南太平洋にうかがふ島、イースター島でも、たくさんの黒曜石が産出されていて、世界遺産として有名なあの「モアイ像」の目にも黒曜石が使われている。サンゴ石でできた白目にうめ込まれた、黒曜石の「黒い瞳」。その神秘的な目のモアイ像は古代の昔から何を見つめていたのだろうか。

コラム
島根の青銅器
なんでも情報

全国の4割近くが
島根で出土!
「荒神谷遺跡の銅剣358本」「加茂岩倉遺跡の銅鐸39個」は1カ所からまとまって出土した数としては全国トップ。これを都道府県別に青銅器(銅剣・銅矛・銅戈・銅鐸の合計)の出土点数の合計ランキングしてみるとどうなるか。第1位は539個の福岡県、島根県は442個で堂々全国第2位にランクイン。

日本で一番古い形の
銅鐸が荒神谷にあった!
銅鐸は、朝鮮半島の小型のベルをもとに日本で考え出されたもの。その後、「まつりの道具」として次第に巨大に、装飾も派手に、と変化をとげていく。荒神谷遺跡から発見された銅鐸のうちの1つは、日本で6個しか見つかっていない一番古い特徴をもつ銅鐸だ。日本で銅鐸を使い始めた初期のころから、出雲人は銅鐸の音色に心奪われていた?!

加茂岩倉遺跡から
全国最多、銅鐸39個!



ポイント2

どんなふうに埋められていたのかしら?



土の中から発見された銅鐸

荒神谷遺跡から、
358本もの銅剣が!!



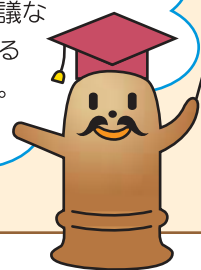
うわあ!
こんなにたくさん
青銅器が
あったんだ!



発見された銅剣

ポイント1

出土した銅剣には、
ある不思議な
特徴がある
のじゃ…。



銅鐸と銅矛も発見

考古学者たちも驚いた!

弥生時代

青銅器大量発見の現場

世紀の大発見

一九八四年七月、簸川郡斐川町で大発見がありました。発掘調査をおこなっていた作業員の一人が、青緑色にさびた弥生時代の銅剣の一部を見つけたのです。これが「世紀の発見」の始まりでした。出土した銅剣は、全部で三五八本。当時出土していた銅剣の数は、日本国内すべてを合わせても三〇〇本ほどだったので、この大ニュースはたちまち全国を駆けめぐりました。

その翌年には、銅剣の発掘場所から東へ七メートルの場所で、今度は銅矛十六本と銅鐸六個が出土。銅矛と銅鐸が一方所から同時に見つかったのは全国でも初めてだったため、それはさらに驚きの二ニュースでした。これが「荒神谷遺跡」です。

そしてその十二年後の一九九六年、荒神谷遺跡からわずか三・四キロメートルのところ、銅鐸二十九個が発掘されました。これが「加茂岩倉遺跡」です。

この二つの遺跡の発見によって、それまでの考古学の常識はひっくり返され、島根の古代史はさらに、全国から注目を集めるようになったのです。

もっと
知りたい!

ポイント1
調べるメニュー

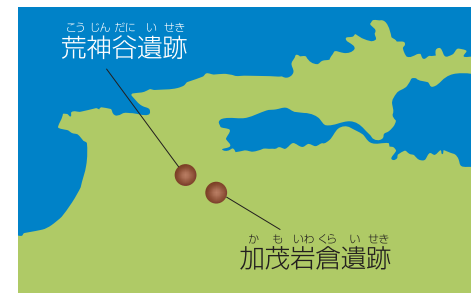
ポイント2
調べるメニュー

荒神谷遺跡から出土した銅剣のほとんどの茎(なか)の部分に×印がぎざまれています。この×印は、加茂岩倉遺跡から出土した十四個の銅鐸にもぎざまれています。この二つの遺跡以外からは見つかりません。そこには、どんな意味が隠されているのでしょうか?

加茂岩倉遺跡の銅鐸は、大きな銅鐸の中に小さい銅鐸を入れた状態で出土しており、これを「入れ子」といいます。弥生時代の人々は、どんな意味を込めてこのような埋め方をしたのでしょうか…。



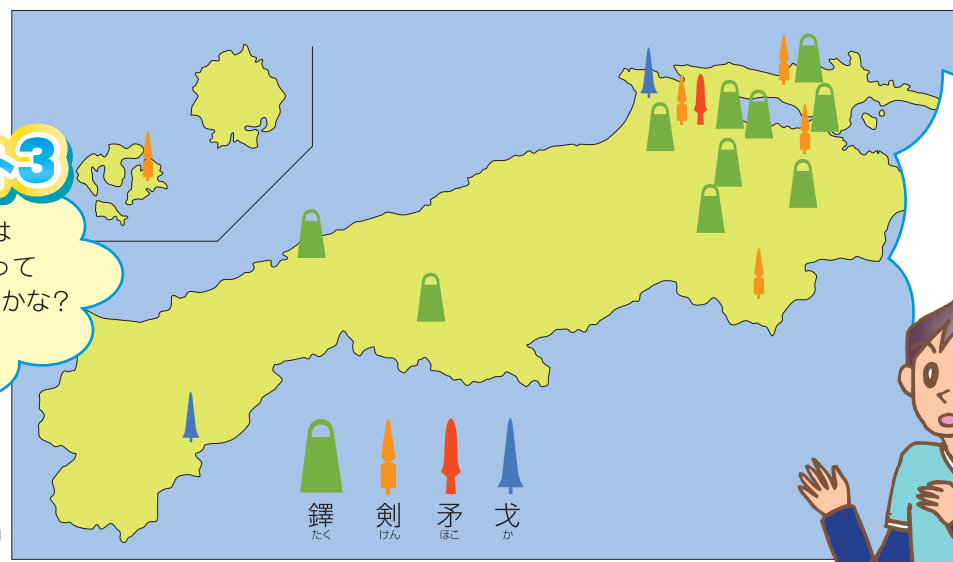
入れ子の状態の銅鐸(加茂岩倉18号・19号)



島根の青銅器大解剖!

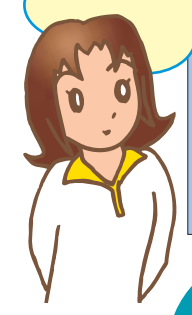
弥生時代

島根県内のいろいろな所から出土してんだね!



ポイント3

銅鐸は
どうやって
つくったのかな?



どう 銅鐸

ポイント4

銅鐸はどんな
ふうに使われて
いたんじや
ろうな?



2000年前は
こんなにピカピカ



加茂岩倉35号銅鐸 シカとナゾの四つ足動物の絵

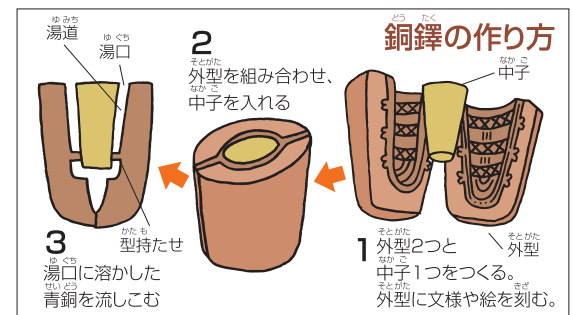
いろいろな絵が
描いてある!



もっと 知りたい!

ポイント3 について くわしく見てみよう!

発掘された青銅器は、長い年月のせいで青緑色をしています。つくりだされたときは黄金色に輝いていました。今でも、青さびの下は黄金色です。その材質は、銅に少量の錫と鉛を混ぜたもので、その配合の比率を色や固さ、強さのちがいが生まれます。青銅器をつくるには、まず鋳型をつくり出します。そこに銅、錫、鉛を溶かして合わせたものを流し込み、しばらくして型をあげ、数時間自然に冷まします。



その後、形をととのえ、表面を磨いて完成。

目や鼻など人の顔を表現した銅鐸。下の方に水鳥の絵もあるのじゃ。



出雲地方出土銅鐸 (八雲本陣記念財団蔵)

青銅器は何を語る?

わからないことだらけの青銅器だが、誰が何のためにつくり、埋めたのかについてはいくつかの仮説がある。「誰か」については、当時の権力者説が強く、「祭器」としてつくられたというのが有力である。そして最大のナゾは「何のために埋めたのか。」これについては、次の三つの説に代表される。
一、普段は神聖な場所に埋めておいて、まつりのときだけとり出す「保管説」。
二、青銅器のまつりが終わったことを意味する「廃棄説」。
三、他の勢力にとられないようにするための「隠匿説」。
このほかにも、いろいろな推測がとびかかっているが、真実はまだナゾのままなのだ...

謎



加茂岩倉10号銅矛 海ガメの絵



加茂岩倉18号銅鐸 トンボの絵

もっと 知りたい!

ポイント4 について 調べてみよう!

銅鐸は、ムフのまつりの場で音を鳴らして使われていたと考えられていますが、それは下の写真のように、「突帯」と呼ばれる部分がすりへっていることから内側に棒をぶらさげて鳴らしていたと推測できます。その後、銅鐸はだんだんと大型化していき、やがては遠くから仰ぎ見られるものに変わっていったと考えられています。



この部分がすりへっているね!

どう 銅剣

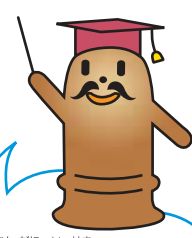
銅矛は
長さ
70~84cm。
重さは
980~2160g。

銅剣の
長さは
50cm前後。
重さは
500g
あまり。

どうやって
使ったんだろう?



どう 銅矛



荒神谷遺跡から出土した銅矛は、銅矛の本場、九州北部のものと同じなのじゃ。このことからどんなことが考えられるかな?

荒神谷遺跡出土タイプの銅剣は、出雲地方で多く発見されていることから、出雲が産地であるといわれています。

銅剣は出雲を代表する青銅器なのかな?



古代出雲 空想ものがたり 青銅器との訣別

今から約二〇〇〇年前、斐伊川の下流域に広がる出雲平野には、二〇のムラがあった。この物語は、そのムラオサたちによって、出雲が平和に治められていた時代から始まる。

『銅鐸』『銅矛』時代の終わり

出雲平野の南東部、カンバの里(現在の斐川町のあたり)では、各ムラのオサたちが集まり、出雲の将来について話し合いを行っていた。その席で、オサたちのリーダー格であるカンバのオサは言った。

「西(現在の九州北部地方)でクニ同士の戦いが激しくなり、多くの人が死んでおる。東(現在の近畿地方)でも同様じゃ」

この時代、日本の各地では戦いが起こるようになっていた。出雲でも、いつかは強力なクニに支配されてしまうのでは、という危機感が広がっていたのだ。こうして他国の支配から出雲を守るためには、ムラ同士のつながりをいっそう強め、一つのクニとして団結する 때가来ていた。

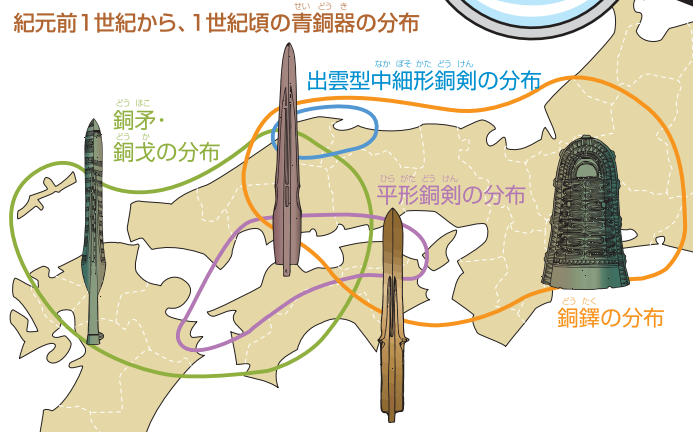
この頃の出雲のムラは、『黄金の神』と呼ばれる青銅製の『銅鐸』や『銅矛』をシンボルにまとまっていた。出雲のムラオサたちは、ムラに問題が起こると、いつも『黄金の神』のお告げを聞いた。古代人にとって、初めての金属製品である青銅器が発する音や光は、まさに神々しく、人びとの心一つにするに十分だった。

しかし、出雲のムラオサたちは、西や東での戦乱の様子が伝わって来たことで、銅鐸や銅矛をシンボルとする時代の終わりを予感するのだった。

「銅鐸はもとは東のクニのもの、銅矛は西のクニのものだ。いつまでもよそから来た神だけにたよっては行かない。出雲だけの神を持ち、もっと結束を強めなければならない」

空想ものがたりを読み込もう!

もっと知りたい!



ポイント①

青銅器のかたちの違いからわかること
これまで、銅剣・銅矛は九州北部を中心とした西日本で、銅鐸は近畿地方を中心に発見されていました。このことから、九州地方と近畿地方に、それぞれ違う文化の、強い勢力があったと考えられていました。しかし、荒神谷、加茂岩倉の発見により、出雲にも強い勢力をもつ国があったのではないかと考えられるようになったのです。

ポイント②

荒神谷遺跡の近くに、青銅器の工房があったのかな?

うむ、実際に見つかったのはおらんが、その可能性も大いにあるのじゃ。

ポイント③

これに関しては、いろんな説があるのじゃ。13ページの「謎」にも書いてあるぞ!

ほんとうにこんなふうにして埋めていたのかしら?

ポイント②

「そうだ、われわれを守ってくれる剣を、出雲のシンボルとしよう」
こうして、出雲独特の形をした銅剣を作り、各ムラがまとめることで結束のあかしとすることにした。この銅剣こそが出雲のクニのシンボルとなり、『出雲コク』誕生への第一歩となるのであった。

出雲人の『黄金の神』の誕生

さつそくカンバの里の近くに工房が作られ、青銅製作の技術者たちが集められた。

作業が始まって二年が経過して、四〇〇本の銅剣が完成した。ついに、出雲で初めて、神の分身が作られたのである。

カンバのオサは、高らからに号令した。「今日より、わが出雲の地では、この剣をもつて神のまつりを行う」

カンバのムラに集まったムラオサたちは、おのにおに銅剣を持ち帰り、新たな神の分身として各ムラの神殿にまつた。

同じ銅剣を用いて、同じまつりをする出雲のムラ同士の結束は、今まで以上に強固なものとなっていた。そして、出雲のムラを束ねるカンバのオサは、しだいに『王』としての指導力を発揮させていった。こうして、カンバのオサをトップとするクニ『出雲コク』が誕生したのである。

『黄金の神』との訣別

銅剣を『黄金の神』として、ムラ同士の結束を強めていった出雲コクは、平和なときを過ごしていた。一方、近畿や九州では、ますます戦いが活発になり、その勢いは、いつしか出雲のすぐそこまで来ていた。

中国山地を隔てた吉備(現在の岡山県)のクニでは、一人の王がムラを束ね、強力な吉備連合コクを作り上げていた。そして、ついに吉備のクニが、隣のクニと戦いを始めた

ポイント③

められ、ムラオサたちが見守るなか、王の手によって土の中に埋められた。
「わが先祖の時代から長きにわたり、われわれを守ってきた剣の神よ。この聖地に眠り、これからもわがクニを守りたまえ。そして、剣の神の力をわれの体に与えたまえ」
出雲コクの王は、黄金の輝きを放ち続けた青銅の神にそう祈った。そして、この場で提案された新たなルールこそが、『四隅突出型墳丘墓』という王の墓をシンボルとすることだった。こうして出雲コクは、『王』を中心とする新たな時代へと歩み始めたのである。

ここに書かれた物語はあくまでも空想のものがたりなのじゃ。



王墓、あらわる！

西谷三号墓大研究

弥生時代

ヒトデのような？
布団をかけた
コタツのような？
変わった形のお墓が見つかった!!

いったい
だれのお墓
なのかしら!?



出土した土器の数々
(島根大学法文学部考古学研究室蔵)

ポイント5

墓の穴の上からは、300個を越えるたくさんの土器が出土！そのうち3分の1は吉備や北陸など出雲以外のものなんじゃ！

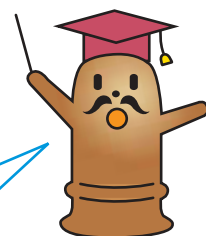


実際の比率はこのくらい!!



もっと知りたい!

高さが学校の2階くらい、広さが体育館くらい。小高い丘の上に作られた巨大なこのお墓は遠くからでもよく見える!



四隅突出型の古墳は、国内では102基、県内では39基あるのじゃ。その中でもまわりに石がはってあるのは出雲を中心とした山陰地方だけの特徴なんじゃよ!

奇妙な形のお墓 「四隅突出型墳丘墓」

弥生時代の終わりごろ（今からおよそ一八〇〇年前）、出雲を中心に、ヒトデのような奇妙な形をした墓がつくられました。これは、その形の特徴から「四隅突出型墳丘墓」と呼ばれています。その代表が、出雲市大津町の「西谷三号墓」です。

西谷三号墓は、規模が東西四〇メートル、南北三〇メートル、高さ四メートル、隅の突き出た部分を含めると長辺が五〇メートルにもなり、当時の墓としては全国最大級の大きさを誇ります。

西谷三号墓の上には、少なくとも八人以上の人が葬られ、その中でも、墓のほぼ中央に当時の「王」とその「妃」が葬られていたのではないかと考えられています。

ポイント6

人が葬られた木棺の底には、当時貴重だった朱が一面にしかれ、玉類や剣などの副葬品も見つっている。また、いちばん大きな穴のまわりには、巨大な四本柱があったことを示す四つの穴が出てきたのじゃ!



ポイント5から推測すると...

吉備・北陸とも交流があった!

同じころ、吉備・北陸でも、やはり巨大な墳丘墓がつくられています。いずれも西谷三号墓との共通点が見られます。西谷三号墓から出土した大量の土器にも吉備や北陸のものが数多くあることから、出雲・吉備・北陸の三地域の王が交流を持っていたのは明らかです。各地域をまたぐ王国連合のようなものがあつたのかもしれないですね。

ポイント6から推測すると...

お墓には屋根があつた?

中央のいちばん大きな墓穴のまわりにだけ、四本の大きな柱のあとが見つかることから、ここに埋められたのが特別な人物だったと考えられます。そしてその中央には赤く塗られた丸い石が置かれ、そのまわりで多くの参列者が王の死を悲しみ、別れの儀式をしていた様子も想像されています。



「神々の国」ともいわれる出雲の地に残された不思議な墓。
『出雲国風土記』に出てくる神々とも、何か関わりがあつたのではないだろうか??

突き出た隅のナゾ
四隅突出型墳丘墓は、青銅器に代わって「首長(王)が、死んだ時に行われる、まつり(儀式)の場」としてつくられるようになった。その形には謎が多い。突き出た隅は、何を意味しているのだろうか。「生者と死者の世界を分ける」「悪霊をささげるため」「頂上で行う葬送の儀式のための通路」などと考えられているが、まだ解明されてはいない。

弥生生まれの「へら」の道具

コラム

弥生時代、大陸から米づくりに使った道具をつくる技術も伝わり、人々はさまざまに工夫し、生活に必要な道具をたくさんつくりました。鉄製の道具がいつか使われるようになったのもこの頃です。

田げた

水田に入るとき、どろの中に足がしずみこまないようにはくもの。

石包丁

稲の、穂先だけかり取るための道具。二つの穴にひもを通し、指をかけて使う。

紡錘車

絹や麻などの糸をつむぐための道具。糸から布を織る、機械織りがおこなわれていたことがわかる。



また、機械織りの技法が伝わったことで、それまでの手で編んでいた布よりも目が細かく丈夫な布がたくさんつくられるようになった。

弥生のムラに生きた人々

どんなものを食べていたんだろう？

ポイント7

弥生時代の人たちが食べていた米は、今の米とはすこしちがうんじやよ。



意外とごちそうだね…



写真はイメージです。

もっと知りたい!

お米は赤かった!?

ポイント7についてくわしく見てみよう!

弥生時代の前後に日本にやって来た米は、今私たちが食べている「真っ白なお米」とは違うものでした。それは、米の色が赤茶色のような黒みがかったような、そんな色素の多い米だったよ。今ではそれを「赤米」や「黒米」などと一般には呼んでいません。その品種改良をされる以前の、原始 古代 以来の歴史ある米だろつこと、古「古代米」という名称でもって言い表されていることもよくあります。最近の歴史ブームや健康ブームによつて脚光を浴び、イベントや健康食品などで多く目にするようになった。

米だけでなく、穂の色も赤い。穂の先の、ノギと呼ばれる毛が長く、鳥などのエサになりにくくなっている。



また、安定して食料を確保できるようにになったおかげで、ものづくりの専門集団ができてくるなど、社会は大きく変化していったのです。弥生時代につくられた土器は、縄文土器にくらべると薄く、それなのに硬く、使いみちによつていくつもの種類がありました。米以外にも、弥生人はいろいろなものを食べていました。銅鐸にも描かれているように、イノシシやシカなどをとつて食べていたと考えられています。また、県内の遺跡からは、ヤマトシジミ、カキ、サザエ、アワビなどの貝殻、ウニ、そしてナマズやフナ、ハゼ、ススキ、イワシ、エイなどたくさん種類の魚骨も出土しています。



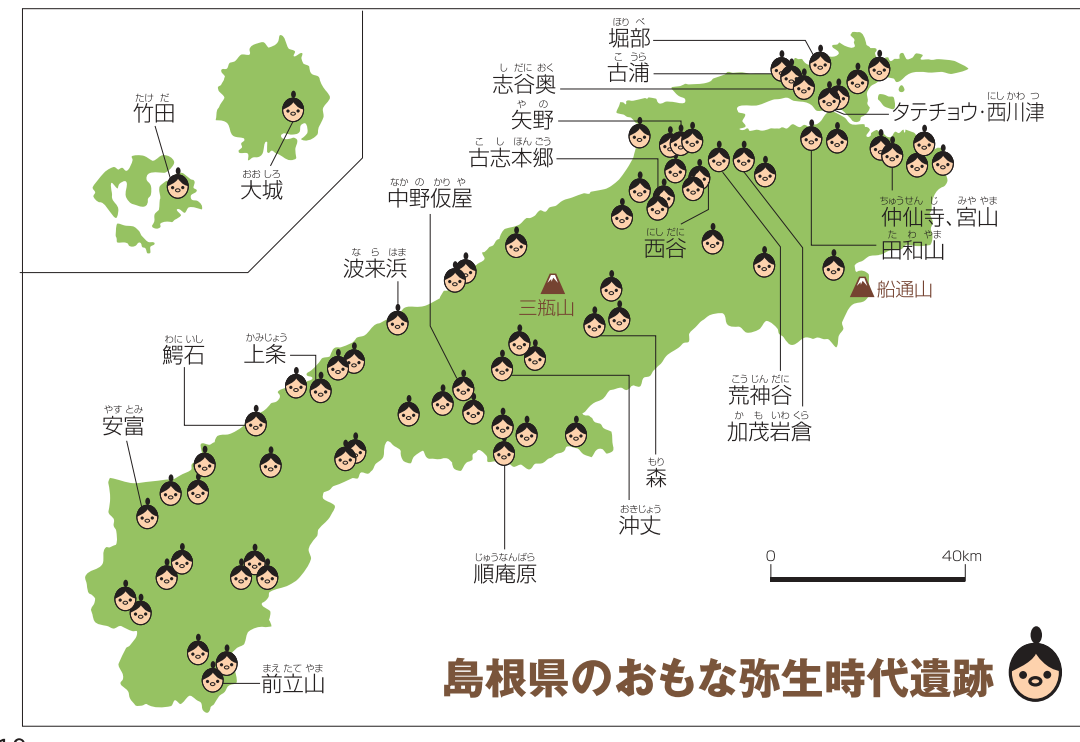
出土した弥生土器

食料が安定する時代のはじまり

いまから約二五〇〇年前に、大陸から米づくりの技術が伝わりました。そのおかげで、毎年決まった時期には収穫を得られるようになり、人々の食生活は安定するようになりました。

水田を耕すにはたくさんの人手が必要のため、しだいに人々が集まって暮らすようになり、やがて力のある指導者のもと、「ムラ」ができ、「クニ」ができてきました。そして、ムラ同士、クニ同士の争いも起きるようになりました。

また、安定して食料を確保できるようにになったおかげで、ものづくりの専門集団ができてくるなど、社会は大きく変化していったのです。



島根県のおもな弥生時代遺跡

鏡に隠された秘密とは？

全国で一枚しか見つからない貴重な鏡！

どうして貴重なの？



実物大 (直径約23cm)

もっこの青銅器「銅鏡」

銅剣・銅矛・銅鐸の時代が終

わり、古墳時代(約一七〇〇年前)に入ると、「鏡」が権力のシンボルとして使われるようになります。

鏡と言っても、今私たちが使っているようなよく映るものではありません。が、古墳時代の王たちは中国でつくられた鏡をたくさん持っており、それだけでなく中国のものをまねて日本製のものをつくるほどでした。これは鏡を持つことが「王」のあかしとなつたからと考えられています。

またこの時代につくられたお墓のいさを「古墳」といいます。古墳から出土する鏡は、銅や錫などを混ぜてつくられたもので、鏡の裏側の文様からいろいろな種類に分かれますが、その中でも特に好まれたのが「三角縁神獸鏡」という鏡です。この鏡は近畿地方の古墳で大量に発見されており、次いで岡山



ポイント1
鏡の裏側に刻まれた「景初三年(239年)」という文字がポイントなんじゃよ！この反対側が鏡面で、きれいに磨いてあるのじゃ。

鏡にぎざまれた41文字



九州北部、東海などの地方から数多く発見されています。その分布のしかたから、畿内の大和政権が各地の中・小の豪族たちに配つたものと考えられ、それは大和政権から地位を保證され、それぞれの地域をおさめる王権を得たことを意味するのです。

景初三年陳是作鏡自有經述本是京師杜地■出吏人詔之位至三公母人詔之保子宜孫壽如金石兮■(読み解けない文字)

もっと知りたい!
ポイント1
ついでくわしく見てみよう！

邪馬台国はどこにあった？
「邪馬台国」とは、約一七〇〇年前の中国の歴史書「魏志倭人伝」に登場する国である。当時の日本は倭と呼ばれており、倭には三十あまりの国があり、そのひとつが邪馬台国と呼ばれ、女王「卑弥呼」によってまとめられていたとされる。
その場所については、古代史最大の謎のひとつとされ、弥生時代に先進地であった九州にあるとする説と、古墳時代に巨大な古墳が出現する近畿地方にあったとする説などに分かれています。
卑弥呼が生きた時代は、ちょうど弥生時代から古墳時代へと移り変わる時期にあたり、古墳の出現の謎と関連して様々な説が生まれている。そのころの島根にも三十国のひとつがあったと考える説もあるが、謎は深まるばかりである。いつかこの謎が解明される日が来るのだろうか？

一九七二年、加茂岩倉遺跡のある雲南市加茂町の神原神社古墳から見つかった「三角縁神獸鏡」。その裏面には、四十一の文字がぎざまれていて、その中には「景初三年」という年号が含まれていました。それは、邪馬台国の女王卑弥呼が、魏の皇帝から百枚の銅鏡をもらったとされている年です。

神原神社古墳の鏡は、このときの一枚ではないかと考えられているのです。そしてこの「景初三年」の年号がぎざまれた三角縁神獸鏡は、今までに大阪の和泉黄金塚古墳と、この神原神社古墳からのたった一枚しか見つかりません。

卑弥呼の国と連合していた王国が島根にあったかも!!

卑弥呼想像イラスト (参考資料: 井筒雅風氏の復元した衣装)

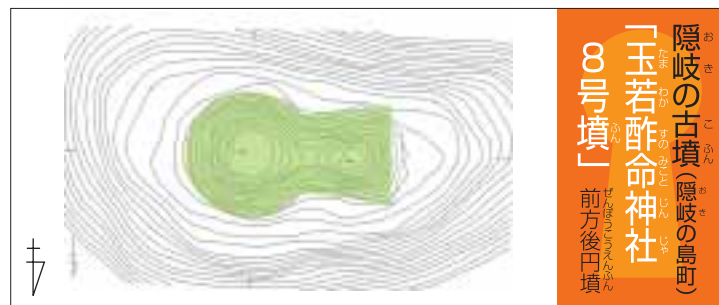
ポイント2について見てみよう!



石見の古墳(浜田市)
「周布古墳」
前方後円墳



出雲の古墳(松江市)
「山代二子塚古墳」
前方後方墳



隠岐の古墳(隠岐の島町)
「玉若酢命神社」
8号墳
前方後円墳

もっと知りたい!

これが島根県でいちばん大きい山代二子塚古墳ね!



ポイント2

出雲地方と石見地方では古墳の形の特徴がすこーしちがうんじやよ!



後方

前方

実際の比率はこのくらい!!

山代二子塚古墳は、周りのつつみまで入れると長さ約150m、幅90mもある!これは学校の教室が約13こもすっぽり入る大きさじゃ!

ポイント3

もっと知りたい!

島根県内にはどのくらい古墳があるのかな?



ポイント3についてくわしく見てみよう!

島根にある古墳の形いろいろ

(数字は県内にある古墳の数)



※未確認の古墳や知らない古墳に消滅してしまったものを含めると、実際の数は五〇〇〇を超えると思われる。

島根で最大の前方後方墳「山代二子塚古墳」

私たちの住む島根県は古墳の多い地域で、平野に面した丘の上や台地の上、そして平野の中にも見つけることができます。

古墳というと、カギ穴のような、円に台形をくっつけたような形の「前方後円墳」がまず思い浮かぶかもしれませんが、島根県でも前方後円墳も見られますが、出雲地方では「前方後方墳」「方墳」といった四角い古墳が多いのが特徴です。

このころ、大和政権のあった近畿地方の主流は「前方後円墳」でした。大和政権に支配されながらも、出雲には独自のものをつくるようになる特別な勢力があったのかもしれません。

島根県最大級の古墳は、松江市山代町にある「山代二子塚古墳」です。この「前方後方墳」という名前は、大正時代に『島根県史』という本をつくった、松江市の野津左馬之助という人が山代二子塚古墳を見て名付けたもので、その後全国でも使われるようになりました。

※前方後方墳の前方とは、古墳の前方に方形部分がついた形と見て名付けられたものです。

全長五〇メートルの巨大な古墳はなぜつくられた? —

出雲の古墳は四角!?

古墳時代



前方後方墳はなぜつくられた!?

前方後方墳は、全国的には古墳時代の初め頃に見られるタイプの古墳で、その地域の初めての古墳が前方後方墳であることも珍しくない。そして古墳時代の中頃には全国的に姿を消し、鳥根県でも造られなくなるのだ。しかし、なぜか出雲東部では後半期にはいると再びこの形を採用している。他には関東地方の一部にわずかに見られるに過ぎないのよ。これも、古代出雲をめぐると大きな謎の一つである。

6世紀後半における各地の最大の前方後円(方)墳

出雲東部の王
想像イラスト



ポイント4

この時代、「山代」という地域には大きな政治勢力があったと思われるんじや。



いったいどんな人だったんだろう？

巨大な古墳に眠るのは…？

埋められた人物のナゾにせまる！

古墳時代

東部勢力の王墓群

こんなに
せまい地域に
たくさん
あったのね！



ポイント4について
くわしく見てみよう！

出雲地方東部の勢力の拠点だった「山代」の地

古墳時代後期になると、全国的に古墳の大きさはだんだん小さくなっていきました。

それに対して出雲地方では、逆に当時としては大きな墓がつくられるようになってきたのです。

このころ、山代という地域(松江市山代町)には、「山代方墳」、「永久宅後古墳」など大型の古墳が次々にひびかれていきました。それらは、山代二子塚古墳の南東、神々の降り立つ山と言われる茶臼山のすそ野にあり、少し前の時代にくらべられた「大庭鴉塚古墳」と合わせて「山代・大庭古墳群」と呼ばれています。このことから、この地域には、有力な王の拠点があったと考えられます。

山代二子塚古墳のように巨大なお墓をつくるには、大勢の人の力が必要であることから、ここに埋められたのは、人々をまとめる力を持った、出雲東部の王であったに違いありません。

古墳時代に生きてた島根の人々

古墳時代

出雲は、玉作りの中心の地だった!

玉作工房内部のようす
復元模型・安来市大原遺跡



ポイント5
ひと口に「玉」といっても、いろんな種類があったんじゃないよ!

もっと知りたい!

ポイント5について
くわしく見てみよう!

島根県の玉作工房で作られた玉類は、北は北海道から南は宮崎県まで全国のあちこちから出土しており、その主な石は水晶・碧玉、めのう、滑石などです。松江市玉湯町には、めのう、碧玉の産地である花仙山があり、緑色のまが玉などで有名な碧玉は「出雲石」とも呼ばれています。

碧玉製くだ玉

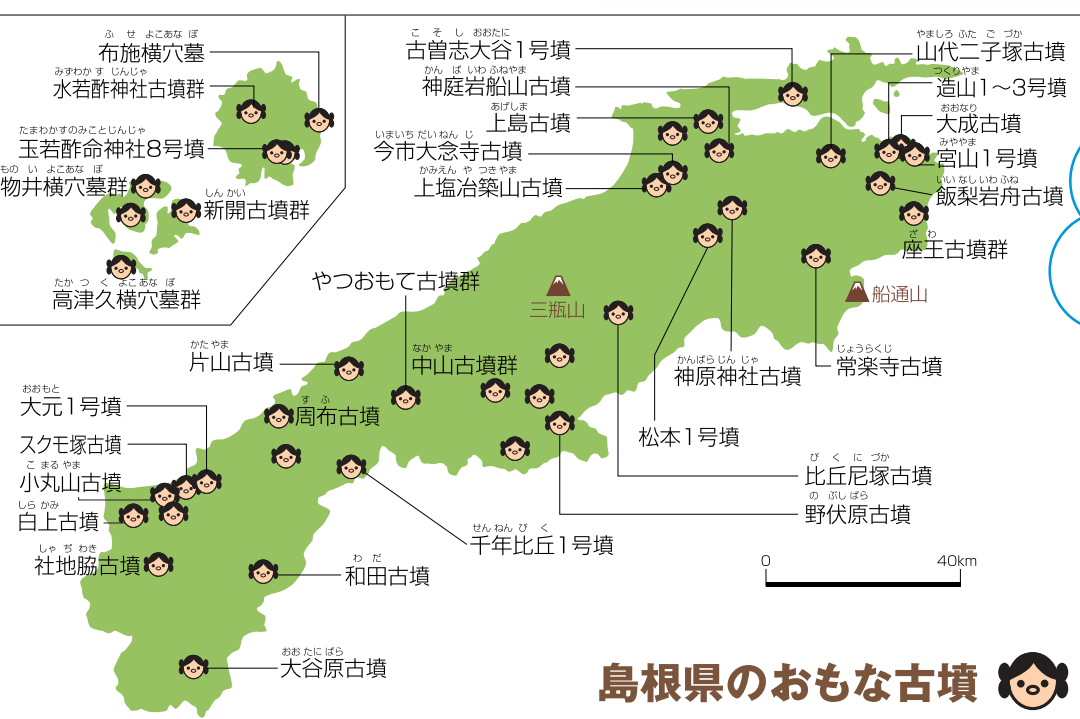
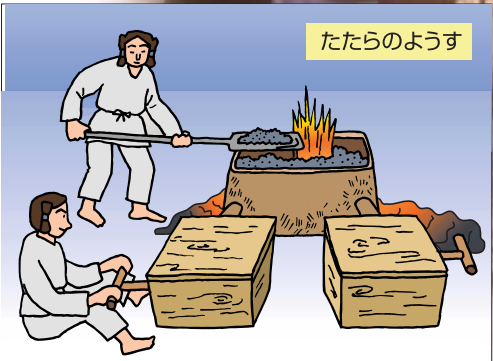
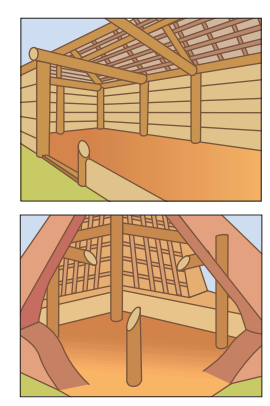


めのう製まが玉



意外に快適?! 古墳時代の家

古墳時代後期になると、壁がまっすぐで柱はその中に埋まり、部屋を広く使える「掘立柱建物」が主流となってきました。それは、竪穴住居に比べ、今私たちが住んでいる建物に「一歩近づいた」と言えるかもしれません。



島根県のおもな古墳

古代しまねの職人さんたち、ウデがよかつたんだ!



今に伝わっているのです。製鉄が発達し、私たち島根県が誇る伝統技術として。この鉄によって様々な農工器具が作られ、生産活動が飛躍的に向上し、生活にも大きな変化があったものと考えられます。その後、中国山地ではたたらまた、最近の発掘調査で、古墳時代の終わり頃には、砂鉄を原料とする鉄作り(たたら製鉄)が始まること確認されています。その遺跡は、邑南町・今佐屋山遺跡や雲南市掛合町・羽森遺跡のように山間部にあり、中海岸部では鍛冶屋のムラも登場しています。松江市の玉湯川流域には、玉作工房の跡が数多く見つかっており、当時、このあたりには玉作り職人がたくさんいたことがわかります。そして、完成したアクセサリーなどは中央の朝廷に運ばれ、そこから各地へ大事な宝として配られたようです。

島根最古の書物、出現!

奈良時代

奈良時代の島根

島根県で最も古い文字とは?

一九八三年、松江市大草町の岡田山一号墳という古墳から出土していた刀に、「額田部臣」という文字が刻まれていることがわかり、古代史上の大発見として、全国的に有名になりました。



岡田山一号墳から出土した大刀

また、出雲市上塩冶横穴墓群から出土した土器には「各」という文字がヘラで刻まれており、これは額田部の「額」の字を略したものと考えられています。この須恵器が、文字の書かれた土器では島根県最古のものと考えられています。

そして、書物としては奈良時代の和銅六年(七三三年)、政府は全国八〇あまりの国々に命じて、それぞれの地方の報告書をつくらせました。これが「風土記」です。残念ながら、現在ではすべての原本はなくなっており、その写本も五カ国しか残っていません。

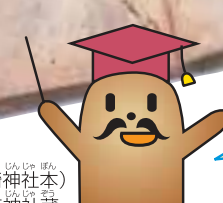
その中でほぼ完全な形で残り、つくられた年代や作者までわかっているのは『出雲国風土記』だけです。全国唯一のとても貴重な書物なのです。



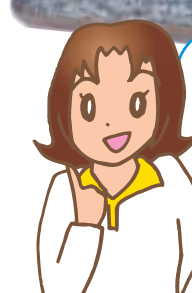
ポイント1
日本で「文字」が使われはじめたのはいつごろかな?



ポイント2
いったいだれが、どんな風につくったのかな?



全国でも私たちの地域のものだけがほぼ完全な形で残っているのね!



もっと知りたい!
ポイント1
調べてみよう!

日本ではじめて文字が使用されたのは、弥生時代の終わり(約一七〇〇年前)ごろ、外国とのやりとりの際と推定されます。また、熊本県の柳町遺跡と三重県の片部遺跡から出土した土器の両方から、「田」という文字が見つかり、出土当時これが最古ではないかと考えられていましたが、本当のところはまだわかりません。

コラム

奈良時代、地方のしくみは、国・郡・郷(里)からなっていました。これらには、今の県庁にあたる国府、市町村役場にあたる郡家、税金である米などをたくわえておく正倉、軍隊の駐屯地である軍団、宿泊施設と伝馬を置く駅などの施設がありました。これらの施設は、今でいう部長・課長・係長のような役人の組織によって運営されていたのです。

わしが郡司(郡役人)の長官(トップ)じゃ!!

わたしは郡司の次官である!!長官の補佐をしておるぞ。

わたしは郡司の3等官!郡内の事務はまかせてください。

わたしは主政殿の補佐役です。

われわれは主政殿の下で公文書の作成を担当しています。

出雲臣 大領
出雲臣 少領
出雲臣 主政
出雲臣 擬主政
出雲臣 主帳

「風土記」時代の役所
(人名は風土記に残る意宇郡の役人)

もっと知りたい!
ポイント2
調べてみよう!

「出雲国風土記」の作者として名前が残っているのは、各地の調査報告をした役人たちと、編集者の神宅臣金太理、そして最高責任者の出雲国造出雲臣広島だけです。

当時の役所は出雲国府(松江市大草町)と九つの郡家、さらにその支所などから成っていました。「風土記」はこれらの役所で二十年もかけてつくられ、七三三年に国府を通して政府に提出されたと考えられています。

筆記用具はどんなものだった?

今でも役所では「文書を作ること」が重要な仕事ですが、昔の役人も同じでした。今はパソコンが筆記用具となっていますが、当時の役人たちはすりと筆、墨をそろえ、主に木簡という木の札に文字を書いていた。書きまがえた時は、小刀で削って書き直していたようです。



郡の役所から出土したすり(奥出雲町カネツキ免遺跡)



平城京跡から出土した木簡(復元)

古墳に変わって新しい建物登場!

発掘された役所跡・寺院跡

当時の役所はどんな建物?

七世紀も終わりに近づくと、出雲地域ではだんだんと古墳がつかわれなくなり、かわって寺院がさかんにつくられるようになりました。『出雲国風土記』には、出雲国内に十一の寺院がある、と書いてあります。

また、出雲国府などの役所がつくられ始めたのもこのころです。島根県内の役所跡からは、当時まだ一般の建物にはなかった「瓦」が見つかることがあります。この瓦、今ではごく当たり前に使われていますが、もともとは当時各地で建てられ始めた寺院の屋根材として広まり、やがて役所の中心的な建物に礎石などとともに使われるようになっていきました。

また柱は、ほとんど残っていませんが、赤く塗られていたと考えられています。このような建物が、東西南北に軒をそろえて建ちならび、敷地全体が塀や溝で四角く囲まれていたことがわかっています。

なお、石見国や隠岐国にも国府があったはずですが、しかし、その場所がどこだったのかはまだ確定されていません。県内には、国府や国府に関する地名もありません。県内には、これらの場所を発掘することで石見国府、隠岐国府がその姿をあらわすかもしれません。

ポイント3

これは、国分寺じゃが、役所跡もいくつか見つかっておるんじゃよ。



すごく
整然ときれいに
建ち並んで
いたのね!!

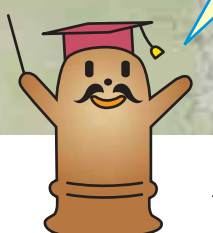


瓦の屋根になると、
今の建物にくくと
近くなった気がするね。



ポイント4

この時期、出雲の瓦には他とちがう特徴があったんじゃ。



もっと知りたい!

ポイント4を調べてみよう!

もっと知りたい!

ポイント3を調べてみよう!

役所跡はどこにある??

県内で発掘調査によって明らかになった役所跡には、国の役所で現在の県庁にあたる**出雲国府**、郡の役所で現在の市役所にあたる**神門郡家**(出雲市古志町)・**島根郡家**(松江市福原町)、そして税を保管する倉庫である**山代郷正倉**(松江山市代町)、**出雲郡正倉**(斐川町)などがあります。

出雲独自の文様

この時代で、瓦を使った建築は寺院と役所に限られていました。松江市の出雲国分寺跡から発見された瓦は、当時、朝鮮半島にあった国、新羅の影響を受けたと思われるもので、繊細な美しい文様を持っています。奈良時代に他県で建てられた国分寺では、奈良の平城京と同様の瓦が使われることが多かったようです。

謎



もし石見・隠岐に風土記が残っていたら...
石見地方と隠岐地方には、残念ながら「風土記」が残っていない。しかし、この地域にも当然奈良時代の役所や寺院があったはずだ。
隠岐では、この時代に使われていたと思われる駅鈴が伝わっているし、特産品の二部がわかる木簡も見つかっている。
石見には、有名な万葉歌人、柿本人麿が石見国の役人をしてきたこともわかっている。石見国風土記の中に、もしかしたらその名前にまつわる伝承があったかもしれない。



オモシロイぞ！出雲国風土記

奈良時代

古代の出雲が丸ごと入ったスゴイ本！

読んでみよう、私たちの風土記

この話、
読んだことが
あるよ！



国引き神話を
実際の地名とてらし
合わせて読んでみよう！



ポイント5

出雲を大きくするために
神様が引っぱったのは
どこの土地かな？



もっと
知りたい！

くわしく見てみよう！

1 高志の都部の三崎・三穂の崎
「北陸の都部の岬を、土地の余りがありはしないか」と見れば、土地の余りがある「と仰せられて」「国み来い、国み来い」といって、引いて来てつなぎ合わせた土地は、美保関であり、引いてきた綱は三ヶ浜半島、つなぎとめた杭は大山である。

2 北門の良波の国を、土地の余りがありはしないか
「北方の佐伎の国を、土地の余りがありはしないか」と見れば土地の余りがある「と仰せられて」「国み来い、国み来い」といって、引いて来てつなぎ合わせた土地は、多々川の切れ目からの、佐太の地塊である。

3 北門の佐伎国・狭田の國
「北方の佐伎の国を、土地の余りがありはしないか」と見れば土地の余りがある「と仰せられて」「国み来い、国み来い」といって、引いて来てつなぎ合わせた土地は、多々川の切れ目からの、佐太の地塊である。

4 栲波志羅紀の三埼・八穂尔支豆支の御埼
「朝鮮半島の新羅の岬を土地の余りがありはしないか」と見れば、土地の余りがある「と仰せられて」「国み来い、国み来い」といって、引いて来てつなぎ合わせた土地は、小津の切れ目から栲波の岬でつなぎ止めるために立てた杭は三瓶山に引いた綱が圃の長浜になった。

大山
三瓶山

7000年前
2400年前
1200年前

読んでもよい、私たちの風土記

『出雲国風土記』には、出雲の地に伝わった神話や伝承、地名のおこり、地形の様子や特産物、当時の動植物、薬草、さらに神社やお寺、道路の様子など、じつに盛りだくさんの内容となっています。

その中にある「国引き神話」は、島根の地形の変化を物語っています。それは、出雲の国は小さかったのです、他の土地を引ひいてきて、島根半島と中国山地側を陸つぎにした、という話です。

縄文時代には、島根半島はまだ本土にくっついていませんでしたが、その後の地形の変化により、二〇〇年前ごろには今のようになりなりました。

当時の人々は「国引き神話」として伝えてくれているのです。

また、地名のおこりについて書かれているところも面白く、私たちの住んでいる町の名の由来がわかるかもしれませんね。

地名のおこり

私たちがだんだん使っている地名のおこりを知っていますか？『出雲国風土記』にはその由来が書かれています。ここではその一部を紹介。

法吉郷 ウムカイヒメが、法吉鳥(フクイ)となりて飛び、この地に降りられたことから、法吉といふ地名になったそうです。

宍道郷 「狩りに出たオオナモチ(オオクニヌシ)が、犬に二匹のイノシシを追わせて通られた道」という意味で、もと「しし」と言いました。犬とイノシシはとも石となったと記され、その石は松江市宍道町白石の女夫岩にある説と、同じく白石の石宮神社にある巨石にある説との二説があります。

仁多郡 オオナモチ(オオクニヌシ)が「ほどよい広さで、斐伊川の上流でにたしき(瀬)があとつて肥えている(国である)と誉めたところからつけられた仁多は、現在も田園が広がり、秋には稲穂が黄金色に輝き、大地の恵みを産出しています。

特産物

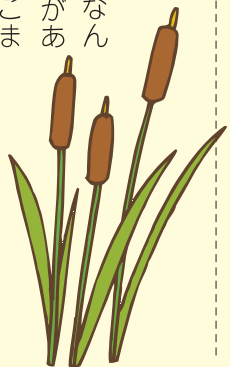
『出雲国風土記』を読むと、ノリは楯縫郡のものが一番おいしく書かれています。これは今でも有名な十八島(フナシマ)のノリのことかと思われま。

薬草

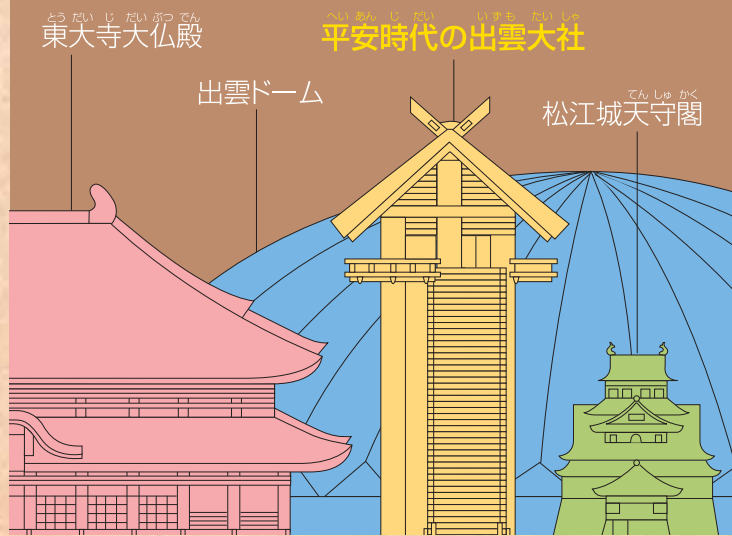
薬草については、なんと六十一種類もの数あげられています。ここま

で詳しく薬草について書いてある「風土記」は他にありません。出雲神話に、オオクニヌシがワサギをガマの花粉で治した話ものついでに、オオクニヌシは医者神様でもあったのです。

古代出雲は薬草王国だったのかも知れませんね。

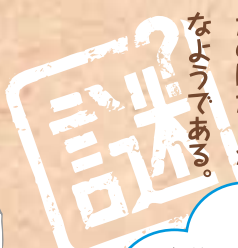


～古今東西・木造建築の高さ比べ～



本当の高さは???

出雲大社本殿の高さは現在では二十四メートルだが、平安時代には倍の四十八メートル、さらに以前には九十六メートルの高さがあったと伝わっているが、ふつうの規模の神社ではなかったのはたしかなようである。



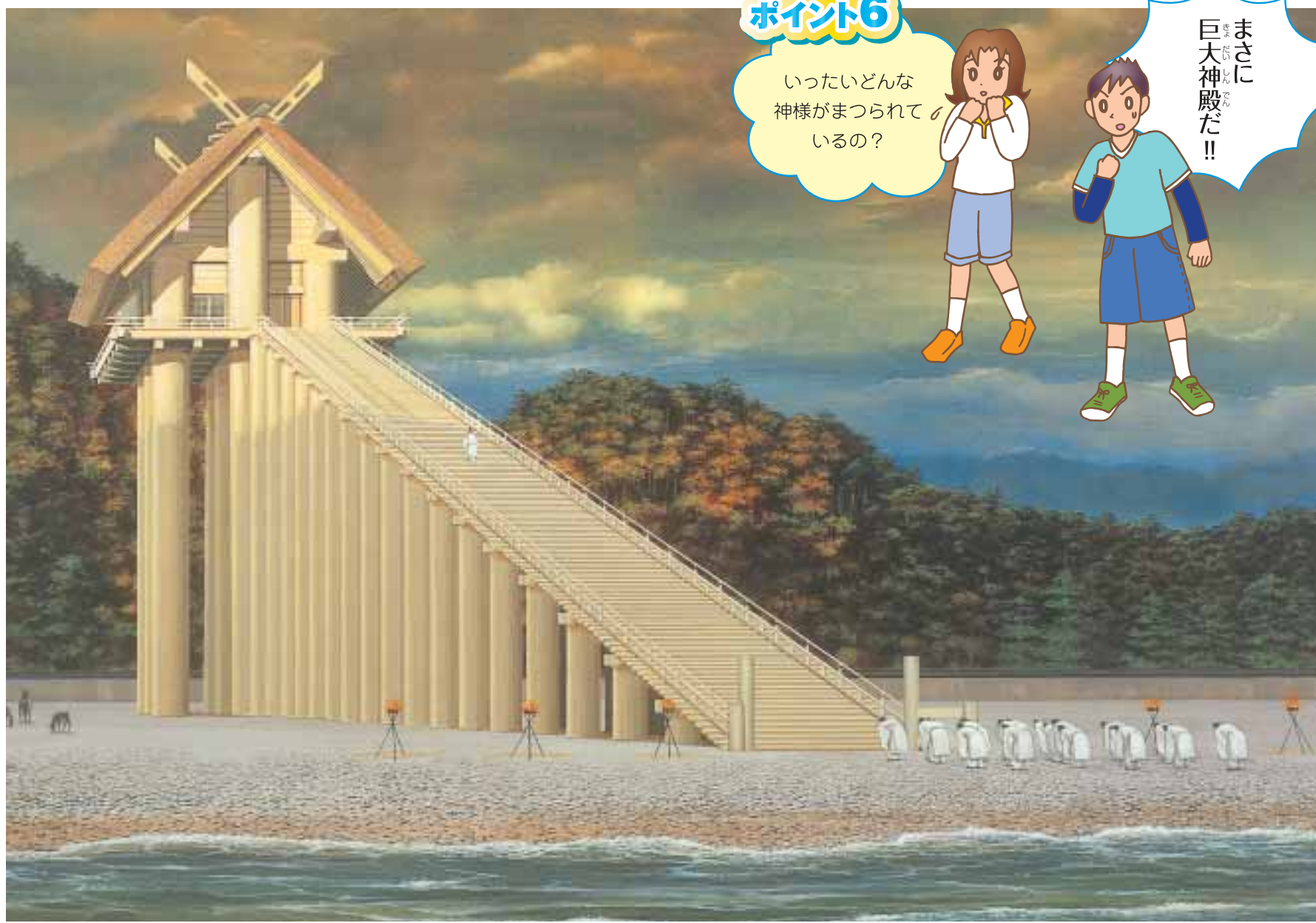
古代の島根の探検はどうだったかな？島根にはすぐれた歴史遺産や文化がたくさんあるのじゃ！



神無月(十月)は神在月!?

日本の多くの神々は、十月になると、出雲地方に集まるといわれており、各神社ではさまざまな神事がおこなわれます。出雲地方で十月を「神在月」といふのはこのためです。

しかし、中には出雲にやってくるられない神様もいるようです。その理由は、●体が大きく、頭は着いたが尾はまだだった(大蛇の神?) ●子だくさんで来られない(食いしん坊のため...) などと語られています。こんな理由をきくと、神様がなんだか身近に感じられますね。



復元: (株)大林組 画: 張仁誠

ポイント6

いったいどんな神様がまつられているの？



まさに巨大神殿だ!!

空にそびえる、幻の神殿!

出雲大社の謎にせまる!

神々の住まい、出雲大社

『出雲国風土記』によると、奈良時代、出雲の地には神社が二九九もあったとされます。

当時は、木や森そのものが神の神社として扱われたり、カンナビ山のように山そのものが神の依り代として信仰されたりしましたが、「杵築大社」と呼ばれた出雲大社のように、ほな社もありました。

出雲大社の言い伝えによると、平安時代に建て直されたものは高さが四八メートルもあったとされています。ただ、あまりの巨大さに「信じられない」という声も上がりましたが、平成十二年、出雲大社の発掘現場から、巨大な三本の杉の木をたばねた柱の根元部分があらわれ、その大きさが全国から注目を集めました。

また、出雲大社の巨大さとその成り立ちは、奈良時代に朝廷が編さんした『古事記』『日本書紀』の中でも大きく取り上げられており、朝廷にとっても出雲大社は特別なものだったことがわかります。



出土した巨大柱



ポイント6 調べてみよう!

出雲大社といえは、今では縁結びの神様として全国でもよく知られています。そして、ここにもまつられているのはオオクニヌシが有名ですが、他にもスサノオ、スセリヒメ、ウムカイヒメ、タギリヒメがまつられています。また、本殿においてオオクニヌシは、正面ではなく向かって左側(西方)を向いています。つまり私たちは、神様を真横から拝んでいるのです。



私の住む町にもあるのね。

しまねの古代を探ってみよう!!



おもしろそうなところがいっぱいあるね!

国立大学法人島根大学ミュージアム

松江市西川津町1060 TEL:0852-32-6496
http://museum.shimane-u.ac.jp/
ホームページにある「しまね遺跡探検」は、県内の遺跡や古墳、歴史について楽しく学べます。

松江市鹿島歴史民俗資料館

松江市鹿島町名分1355-4 TEL:0852-82-2797
佐太講武員塚の縄文土器、古浦砂丘遺跡の弥生人骨や土器などが展示されています。

松江市立出雲玉作資料館

史跡出雲玉作跡から出土した玉の完成品や製作途中の品、原石などが見られます。

松江市玉湯町玉造99-3 TEL:0852-62-1040
http://www.town.tamayu.shimane.jp/shiryokan/

山代二子塚古墳・ガイダンス山代の郷

松江市山代町 TEL:0852-25-9490
案内施設 http://www.city.matsue.shimane.jp/kankou/area/matsue/044.html
山代二子塚古墳の土層が見学できる施設。その他周辺の遺跡に関するパネル展示などもあります。

島根県立八雲立つ風土記の丘資料館

2007年7月、風土記の丘周辺の遺跡や文化財を紹介する施設として、リニューアルオープンします。「額田部臣」銘入大刀や見返りの鹿が展示されます。また、山代二子塚古墳出土のはにわなどがあります。
松江市大庭町456 TEL:0852-23-2485
http://www2.pref.shimane.jp/fudoki/

島根県教育庁埋蔵文化財調査センター

松江市打出町33 TEL:0852-36-8608
島根県内各地で見つかる遺跡の発掘調査をしているところ。土器や石器などの出土品の展示のほか、いろいろな古代体験もできます。(要予約)

出雲文化伝承館

出雲市浜町520 TEL:0853-21-2460
http://www.city.izumo.shimane.jp
かみえん、やつきやま、上塩冶築山古墳出土品や今市大念寺古墳の石棺の実物大模型が展示されています。



島根県立古代出雲歴史博物館

出雲市大社町杵築東99-4 TEL:0853-53-8600 (代)
http://www.izm.ed.jp/
荒神谷遺跡や加茂岩倉遺跡の青銅器、出雲大社境内遺跡の宇豆柱など、島根県内の文化財を一堂に紹介します。出雲神話に関する展示・図書も充実。また、関係図書で調べたり、体験工房で古代体験をしたり(要予約)することができます。

荒神谷博物館

荒神谷遺跡のすぐ近くにある博物館。大画面のモニターで発掘時の様子も見られ、荒神谷の謎をおもしろく学べます。

簸川郡斐川町神庭873-8 TEL:0853-72-9044
http://www.kojindani.jp/

加茂岩倉遺跡ガイダンス

雲南市加茂町岩倉837-24 TEL:0854-49-7885
http://www.pref.shimane.jp/section/bunkazai/about-shiseki/shiseki07.html
加茂岩倉遺跡から出土した銅鐸のレプリカ展示、遺跡の解説ビデオ、パネルなどがあります。

安来市立歴史資料館

安来市広瀬町町帳752 TEL:0854-32-2767
http://www.city.yasugi.shimane.jp/p/2/11/2/4/
安来市の古代から近代にかけての歴史を見ることができ「いにしへの安来」コーナーなどがあります。

奥出雲多根自然博物館

仁多郡奥出雲町佐白236-1 TEL:0854-54-0003
http://fish.miracle.ne.jp/tane-m/
地元の遺跡を紹介したコーナーもあります。宇宙の誕生と進化、生命の歴史について豊富な資料が展示されています。

島根県立三瓶自然館サヒメル

三瓶山を中心とした島根の自然や、環日本海の自然の展示コーナーがあり、ビジュアルドームやフィールド施設なども学習に役立ちます。
大田市三瓶町多根1121-8 TEL:0854-86-0500
http://nature-sanbe.jp/sahimel/

益田市見上地区振興センター(見上公民館(ウッドパーク))

益田市見上町見上1674 TEL:0856-56-1144
http://www.town.hikimi.shimane.jp/hmkamiko/
見上の縄文・弥生遺跡などの展示の他に、世界のパズルコレクションや図書コーナーもあります。

益田市立歴史民俗資料館

遺跡・古墳からの出土品や、明治・大正・昭和の生活用具の資料などがあります。
益田市本町6-8 TEL:0856-23-2635
企画展のみ http://www.iwami.or.jp/rekimin/

津和野町郷土館

歴史資料や美術工芸品、島根県指定文化財などの展示があります。
鹿足郡津和野町森村口127 TEL:0856-72-0300
http://www.tsuwano.ne.jp/kanko/modules/xfsection/article.php?articleid=66

邑南町郷土館

邑智郡邑南町下亀谷210 TEL:0855-83-1580
邑南町内の文化財、遺跡を紹介しています。順庵原1号墓出土品や仮屋銅鐸(レプリカ)も見られます。

隠岐郷土館

隠岐の島の考古資料や島の動植物、貝類、岩石や丸木舟なども見ることができます。
隠岐郡隠岐の島町郡749-4 TEL:08512-5-2151
http://www.e-oki.net/kankou/look/goka/kyoudokan.htm

西ノ島ふるさと館

隠岐郡西ノ島町別府56-10 TEL:08514-7-8877
http://www.e-oki.net/kankou/look/nishinoshima/hurusato.htm
自然の動植物や人の暮らし、古くから伝わる漁具や民具、文化財などが展示されています。

海士町歴史民俗資料館

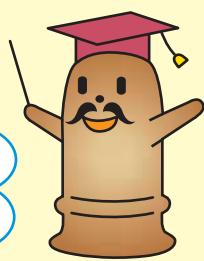
隠岐郡海士町中里 TEL:08514-2-1470
http://www.e-oki.net/kankou/look/ama/siryokan.htm
後鳥羽上皇ゆかりの資料の他、海士町で出土した縄文、弥生、古墳時代の資料なども展示されています。

知夫村郷土資料館

隠岐郡知夫村776-1 08514-8-2301
知夫村で出土した縄文、弥生、古墳時代の資料なども展示されています。



くわしいことはいろいろな施設で調べられるぞ!



写真・イラスト等を提供していただいた関係者の皆様方は以下のとおりです。

出雲市教育委員会
出雲大社
隠岐郷土館
株式会社 大林組
角矢 永嗣
荒神谷博物館
国立大学法人 島根大学法文学部考古学研究室
国立大学法人 島根大学ミュージアム
財団法人 八雲本陣記念財団
島根県教育庁埋蔵文化財調査センター
島根県教育庁文化財課古代文化センター
島根県立古代出雲歴史博物館
島根県立三瓶自然館サヒメル
島根県立八雲立つ風土記の丘資料館
張 仁誠
津和野町郷土館
早川 和子
日御碕神社
益田市立歴史民俗資料館
松江市立出雲玉作資料館
安来市教育委員会
六所神社 (敬称略)

◆「古代のしまね」参考資料◆

この本を制作するにあたり、下記の資料を参考としました。

- ・内藤 正中「図説 島根県の歴史」 河出書房新社 1997年
- ・島根県古代文化センター「いにしへの島根ガイドブック」 島根県教育委員会 1996年
- ・瀧音 能之「古代出雲と風土記世界」 河出書房新社 1998年
- ・「国宝荒神谷ガイドブック」 島根県斐川町教育委員会 1998年
- ・「風土記の丘ガイドブック」 島根県教育庁文化財課 埋蔵文化財係
- ・「ドキ土器まいぶん」 島根県埋蔵文化財調査センター
- ・「古代出雲文化展」図録 島根県教育委員会・朝日新聞社 1997年
- ・佐藤 和彦「絵や資料で調べる旧石器・縄文・弥生・古墳時代」 あかね書房 1996年
- ・「しまね考古風土記」 島根県遺跡調査の会 2004年
- ・勝部 昭「出雲国風土記と古代遺跡」 山川出版社 2002年

- ・島根大学法文学部考古学研究室
http://www.hist.shimane-u.ac.jp/kouko/frame.htm
- ・国宝荒神谷遺跡
http://www.highlight.jp/kougindani/
- ・出雲市教育委員会「なるほど！ザ・おおつ」
http://www.izumo.ed.jp/otsu-sho/beforeH17/study/naruhodo/nishidani/htm/nsdn1999july.htm
- ・八雲立つ風土記の丘
http://www2.pref.shimane.jp/fudoki/
- ・島根県HP「古代神話とタイムトラベル」
http://www6.pref.shimane.jp/kodai/top_menu.html
- ・隠岐の黒耀石
http://fish.miracle.ne.jp/koji/

- ・中日新聞 平成6年2月14日、4月5日

◆引用文献◆

- ・島根県古代文化センター「いにしへの島根ガイドブック」第5巻 島根県教育委員会 1996年 p4～5「八束水臣津野命の国引き神話」、p43「地名の起こりを訪ねる」

ふるさと読本『古代のしまね』編集委員会

編集委員

有馬 毅 一郎 島根県立島根女子短期大学 学長
池 淵 俊 一 島根県教育庁埋蔵文化財調査センター 文化財保護主任
高 橋 一 郎 島根県教育庁義務教育課 指導主事
椿 真 治 島根県教育庁埋蔵文化財調査センター 主幹
長 岡 素 巳 島根県教育庁義務教育課 指導主事
錦 織 稔 之 島根県立古代出雲歴史博物館 主任研究員
村 木 隆 夫 島根県教育庁義務教育課 指導主事
守 岡 利 栄 島根県立古代出雲歴史博物館 主任学芸員
森田 喜久男 島根県立古代出雲歴史博物館 専門学芸員

事務局 島根県教育庁義務教育課
松江市殿町1番地 TEL 0852-22-5576

終わりに

ふるさと読本『古代のしまね』を読み終えて、みなさんは
どんなことを感じ、考えたのでしょうか。

古代の歴史は、謎が多く、まだまだ解明されていないことがたくさんあります。
それだけに私たちは古代の歴史にロマンをいただき、
あこがれをもつのでしょうか。

この本では、古代の島根の歴史をすべては取りあげることができませんでした。
まだまだたくさんさんの歴史的なできごとが、県内の多くの遺跡の中にねもつています。

この本をきっかけに、みなさんが「もつと知りたい」、
「もつと調べたい」と思ったことを、これからの学校での学習や生活の中で
追究してもらえれば幸いです。

次の新しい発見は、みなさんの手の中にあります。

私たちの住む島根にはこんなにはばらしい文化があるということに自信と
誇りをもつて、これからの時代を強くたくましく生き抜いてほしいと願っています。

ふるさと読本 **古代のしまね**～古代王国の謎にせまる～
平成19年2月 発行

【発行】
島根県教育庁義務教育課
島根県松江市殿町1番地

【制作・著作】
(有)松陽印刷所

【制作】

CD. 高橋弘幸
E. 高橋弘幸
小澤晶子
AD. 小澤晶子
D. 小澤晶子
中野祥吾
若槻ゆう

I. 小澤晶子
C. 矢倉みゆき
「青銅器との談別」
OP. 松陽印刷デザイン室
制作管理 松林栄一

無断転載・複製を禁ずる



古代の

古代王国の謎にせまる

しまね

— ふるさと読本 —

島根県教育委員会